

献血推進における実施状況および取組について

ブロック名 北海道・東北ブロック

【若年者確保について】

都道府県名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
北海道	○ティーンズドナーキャンペーンの実施 (血液センターの実施事項) ○サタデー・テーリング等による小学校高学年への献血の重要性を啓蒙	ラジオ番組とタイアップし、CMの作成、イベントを行うなど主な聴取者の年齢層である10代・20代の若い人達への献血啓蒙を図ると共に、学校教育や社会見学等を通じ、小学校・中学校へ「献血の大切さ」を訴えていく活動の推進	将来の献血基盤となる若年者の献血への継続的参加が期待できる
青森県	・17年度の献血者の減少数のうち、10代・20代の献血者の割合が84%を占めている。この数値は前年の割合に比べ14ポイント増加している。このことから、若年層に対する啓発活動を強力に実施する。	①フリーペーパー・タウン情報紙の活用する。 ②「献血サンクスレター」パンフレットの活用する。 ③学生献血推進組織の育成する。 ④新高校生に対する啓発資料の提供を継続する。	・若年層の集まる場所に設置することでPR効果が期待できる。 ・学生ボランティア組織の充実強化により、学内あるいは地域での活動が期待され、啓発が充実される。 ・高校生へ直接資料が配付され、献血の必要性の理解が図られる。
青森県血液センター	青森県学生献血推進連絡会の有効活用。	・学生による情報交換会の開催。 ・学生献血推進連絡会への勉強会開催と献血普及活動に対する支援。	・献血推進活動への意識高揚。 ・更なる安全性確保と安定供給への理解向上と参加しやすい体制の確立。
岩手県	○高等学校を訪問し、献血啓発講話を実施 ○県献血マスコットキャラクターを活用した啓発 ○未来の献血への普及・啓発	○高校生への意識啓発 ○認知度の向上 ○親と子の血液センター見学会の実施	○将来の献血者の確保 ○若年層協力者の確保 ○将来の献血者の確保
宮城県	定期的な新聞広告の掲載	キャンペーン時期以外にも定期的に広告を掲載することで献血意識の向上を図る。	若年層のみではなく、その保護者に対する啓発効果が期待できる。
秋田県	若年層への献血に関する普及啓発を図る。特に高校生に対し、献血への積極的な協力を求める。	献血運動の推進及び献血への積極的な協力の呼びかけ。キャンペーンにおける高校生ボランティアの参加拡大。キャンペーンでの親子連れへの献血の説明。	献血あるいはボランティア活動を通じ、献血の重要性を理解することにより、将来の献血者(400ml、成分献血)を確保する。
山形県	・県内各高校へ啓発資料配布 ・高校生を対象とする献血キャンペーンの実施	・高校に対する献血のPR ・高校献血の実施	・高校生献血者の増加 ・若年層における献血思想の高揚 ・将来の献血協力者の確保
福島県	・大学、短大、高等学校等の学生、生徒を対象としたボランティア活動による献血啓発 ・中学生を対象に献血ポスターコンクールを通じた、献血教育の推進 ・養護教諭等の研修会を通じて、医学的立場から献血の安全性等について啓発	1 高校生等若年層を中心とした初回献血者の推進 2 献血思想の普及 3 高校生献血への理解	1 献血者の確保 2 献血の推進 3 血液製剤の安定供給

【複数回献血者確保について】

都道府県名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
北海道	○血液センターが運営する複数回献血クラブへ協力する	複数回献血クラブへの登録者数の増加を図るとともに、既登録者へのフォローアップ	赤血球製剤・血小板製剤(HLAを含む)が不足時の迅速な対応が期待できるとともに、需要に見合った血液製剤の安定的供給が期待できる。
青森県	・献血バスにおける献血者の減少が著しいため、地域における普及啓発活動を強力に実施する。 ・県庁献血においては、献血者の確保に努める。	①地域・事業所献血推進員の活用 ②県庁献血協力員の活用 ③市町村のイベント時の献血実施	・地域・事業所に密着した啓発が充実される。 ・県庁献血における献血者の確保が図れる。
青森県血液センター	複数回献血クラブ会員募集。	・募集用チラシの配布。 ・生化学検査成績のハガキによる募集案内。	メールやハガキ依頼により、献血者の確保に繋がる。
岩手県	○献血登録者の中から複数回献血者の組織化。	○組織化の推進及び献血に係る継続的な情報提供を行うことによる複数回献血のを推進。	○安定的な血液の確保、必要な血液型の確保
宮城県	「複数回献血クラブ」の周知徹底	各種会議、キャンペーン等の際の周知に加え、県作成リーフレット等に掲載することで周知を図る。	血液の安定確保に加え、制度が周知されることにより、新規献血者の増加にもつながるものと考える。
秋田県	年1回の献血にとどまっている人が献血者全体の約70%を占めていることから、複数回献血を推進する。	ホームページ、市町村広報誌等を活用し、日程の情報提供を行う。休日のキャンペーンを行うことにより献血の機会を増加させる。	休日の献血機会を増加させることにより、初回献血者、複数回献血者の確保につながる。
山形県	複数回献血の呼びかけの強化及び企業等に対する複数回の献血の受入要請	・ホームページへの掲載等による複数回献血の促進 ・事業所への複数回献血に関する丁寧な説明 ・血液センターに対する登録制度の効果的活用の要請	・献血者確保率の向上
福島県	・赤十字血液センターが進める複数回献血クラブ会員の募集を通じて献血者の確保、協力要請 ・集団献血による複数回献血者の確保	1 複数回献血者の推進	1 献血者の確保 2 献血の推進 3 血液製剤の安定供給

【企業等組織的な献血の確保について】

都道府県名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
北海道	○関係機関と連携を図り、会社、工場、学校、地域組織等の献血協力団体の育成に努める。 (血液センター実施事項) 1. 献血協力事業所の強化 2. 事業所・団体等の研修会実施	献血協力事業所の増加を図るとともに、研修会等の開催による献血の重要性、400mL及び成分献血の啓発	需要に見合った血液製剤の安定的供給が期待できる。
青森県	・県庁献血の実施 ・県内献血協力事業所に対し、献血推進協議会長名で、文書でもって献血への協力を依頼する。	・県庁内献血推進協力員の活用 ・知事部局のほか、県警本部、教育委員会等への周知 ・献血協力事業所に対する献血への協力依頼する。	・献血協力者の増加 ・献血協力事業への文書依頼時には、県教育庁の了解のもと、県内の献血未実施高校に対しても行うことから、献血の必要性の普及が図られる。
青森県血液センター	・新規事業所の開拓。 ・ライオンズやPTA連合会等への推進活動。	・計画的な市町村回りや協力団体への推進活動。	・献血バスや献血ルームにおける献血者数のアップ。

岩手県	○献血推進専門員の活動支援	○地域における献血思想の普及向上及び保健所・市町村、企業、その他の関係機関・団体との調整	○きめ細かな献血推進。血液事業の業務の円滑化。
宮城県	県、市町村、血液センターによる事業所訪問	新規協力事業所開拓と並行して、既協力事業所に対しては複数回の協力を依頼する。	献血間隔を考慮して複数回配車することで、安定確保を図る。
秋田県	企業等をはじめとする献血協力団体との連携強化やボランティア等の育成と積極的な受入を図る。	事業所等の職域組織、商工会等の地域組織献血への支援、協力を要請する。市町村と連携を密にし計画的な採血を行う。外部の意見を取り入れるため、市町村に献血推進協議会の設置を働きかける。	外部の意見を取り入れて、計画立案や啓発活動を行うことにより、地域での献血への理解が深まる。
山形県	市町村と連携し、献血推進員による企業等訪問を実施し、献血の受入れを推進	・新規事業所の開拓 ・集団献血の推進	・献血者確保率の向上
福島県	・企業等への訪問及び集団献血の協力要請	1 集団献血の実施 2 複数回献血者の推進	1 献血者の確保 2 献血の推進 3 血液製剤の安定供給

【その他】

都道府県名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
北海道	(血液センターの実施事項) ○献血未経験者および3年以上未献血者への意識調査(アンケート)の実施	調査対象者から血液センターの献血受入環境等へのニーズを多角的な属性で分析し、献血者拡大へ繋げる	献血者の満足度の向上、しいては安定的な献血血液の確保 中長期的視野に立った献血受入施設の検討の基礎資料
青森県	・血液製剤の使用量が年間約100単位以上の医療機関に対し、輸血療法委員会の設置状況や使用量等のアンケート調査を実施している。 ・自治体病院で、委員会等を設置していない施設がある。	①輸血療法委員会合同会議の開催及び研修会の開催 ②使用状況等のアンケート調査の実施 ③自治体病院事務局長会議等における要請	・血液製剤の適切な使用が図られる。
岩手県	○市町村献血推進協議会の活性化	○市町村献血推進協議会の設置・開催促進	○市町村単位での取り組み強化、市町村との連携強化
山形県	市町村に対する献血推進体制の支援として、市町村総合交付金を交付	・献血者の確保(市町村)	・献血協力者の増加
福島県	・血液製剤使用に係わる懇談会の開催 ・病院に対し輸血に関するアンケート調査を実施し、血液製剤の使用状況や管理状況、輸血療法委員会の設置状況及び自己血輸血の実施状況の把握している。	1 血液製剤使用指針等説明会の開催(自己血輸血講習会の実施も含む) 2 輸血に関するアンケート調査の実施 3 血液製剤使用に係わる意見交換会の開催	1 血液製剤の適正な使用が図られる

(注)内容については簡潔にとりまとめること。

別紙様式2

献血推進における実施状況および取組について

ブロック名 関東甲信越地区

都道府県名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
【若年者確保について】			
茨城県	県、市町村及び血液センターと連携して若年層の献血者育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生の献血体験推進キャンペーンの実施 ・ 大学学園祭開催時における献血キャンペーンの実施 ・ 県教育委員会等との連携による普及啓発の実施 	安定的な献血協力者の確保
栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生ボランティアの活動支援 ○ 栃木県献血PRマスコット及び献血PRキャッチフレーズを活用した普及啓発 ○ 学生等を対象とした「献血作品募集」 ○ 路線バス広告 ○ 高校献血 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 栃木県学生献血推進連盟「かけはし」を育成し組織の拡充を図る。 ○ 学生等から応募のあったマスコット等を活用することにより、若年層への普及啓発を強化する。 ○ 献血に関する知識と理解を深めるよう促進を図る。 ○ 高校や大学の前を通る路線を選定し、広告を掲載する。 ○ 高校献血は、献血者数の確保を依存するのではなく、将来の献血者への啓発と捉え、400mL献血の必要性を普及していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「かけはし」の組織の拡充していくことにより、県内全域において若年層の献血運動を推進することができる。 ○ 少子化を踏まえ、将来の献血者に対して、普及啓発を行うことにより、安定した献血者の確保が期待できる。
群馬県	① 高校生献血の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 献血デビュー支援事業：高校生が自主的に行う啓発活動に対し、補助を行う。(平成18年度新規事業) ・ 血液センターによる高校訪問活動 ・ 高校献血の実施 	高校生の献血に対する理解を深めるとともに、初回献血者を拡大することにより、将来における献血者の安定的な確保につながる。
	② 将来の献血者の意識向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生を対象とし「献血に関する図画」を募集する。 	献血可能年齢に達していない中学生を対象とすることにより、献血に対する興味・理解が深まり、将来の献血者の確保につながる。
	③ 若年層献血の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 献血リーダー養成事業：大学や専門学生を中心として組織されたボランティア団体(献血リーダー)に対し、献血や血液製剤に関する研修会を実施する。 	若年層で組織されたボランティア団体に、さらに献血等に関する理解を深めてもらい、効果的な啓発活動等をおこなってもらう。
千葉県	<ul style="list-style-type: none"> ① 高校生を対象とした献血推進啓発作品(ポスター、標語)の募集【県】 ② 県が作成する献血推進啓発リーフレット等に優秀作品を掲載【県】 ③ 公共交通機関による広告(JR中吊り広告)【県】 ④ 小学生献血学習会【血液センター】 	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育現場における学校献血への理解を求める。 ② 広く県民へ広報するために効果的な広告媒体の選定。 ③ 献血可能年齢前の年代層に対して献血の重要性及び必要性の認識をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 将来にわたっての献血者の安定的な確保ができる。 ② 広く県民の献血への理解と協力が期待できる。 ③ 献血年齢に達した時に参加が期待できる。

献血推進における実施状況および取組について

ブロック名 関東甲信越地区

都道府県名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
東京都	1. 日本ラグロス協会による協力 2. 大学、専門学校における学内献血	各大学等のラグロス部員以外への献血PR 及びホームページにより活動の紹介等を行う。 サークル等が中心となる献血の呼びかけ等	ラグロス協会の協力により、多くの学生の協力が見込める。 広く学生の皆様に献血というボランティア活動を身近に感じていただける。
神奈川県	①血液センターを受け入れ機関とした、高校生のボランティア体験を実施する。 ②献血キャンペーンポスターに横浜F・マリノスの選手を起用する。 ③学生が実施する献血推進イベント「ボラフェスタ」を支援する。	①校外における社会貢献活動を学校の単位として認める制度を活用し、高校生を対象に血液センターの見学や採血の現場においてボランティアを体験してもらい、献血への理解を深めてもらう。 ②キャンペーンポスターに人気のある有名人を起用することで、若年層を中心とした幅広い世代の県民に普及啓発を実施する。 ③自主的な活動を通じて学生のボランティア意識の向上を図る。	①若年層が献血について理解を深めることにより、自ら献血者となる意識を高めてもらうことができる。また、教育委員会や各学校に対しても、献血をボランティアとして改めて認識してもらう機会にもなり、普及啓発におけるより一層の連携が期待できる。 ②有名人の起用によって、若年層の興味を引き、広報効果が上がると期待できる。 ③若者の声による普及啓発により、同世代の関心を引き、またイベントのみにとどまらず参加した学生の学内での啓発活動につながることができる。
山梨県	将来の献血支持層を担う若年層の献血意識の高揚を図る ・中学3年生に対し献血思想の普及 ・はたちの献血キャンペーン ・学生献血の組織化(学生献血連絡会議)	若年層(10代～20代)に献血の理解と参加を促す ・街頭における普及啓発資料の配布 ・広報誌等による普及啓発 ・学生組織による集団献血	初回献血者の確保ができるとともに、将来の献血支持層の強化につながる。
新潟県	若年層に対する献血の普及啓発	・高等学校における献血講演会の実施 ・若年層向け啓発資料の作成・配布 ・大学・専門学校への積極的なバス配車	将来の献血を担う若年層の献血への理解と協力
長野県	○高校生献血の推進 ・校長会、養護教諭部会等での献血実施要請 ・高校訪問による献血実施要請	○高校生献血者の確保 ・献血実施要請と献血への理解向上教育要請 ○若年層が参加しやすい大型店での献血実施	○高校文化祭等への移動採血車の配車による献血者確保
埼玉県	若年者確保のため、①献血推進ポスターコンクール②埼玉県献血マスコットによる普及啓発活動③高校生献血メッセージの放送④高校1年生への献血ポケットカードの配布⑤高校訪問⑥小中高校生に対する献血出前講座等を行う。	明日の献血を担う若年者層、特に高校生を重点的に普及啓発活動を行い、献血思想の普及と献血への協力を求める。	学校を通じた効率的な働き掛けや若者達のネットワークなどを活用した友達からの献血の呼びかけにより、若年層の献血者の確保を図ることが期待できる。

別紙様式2

献血推進における実施状況および取組について

ブロック名 関東甲信越地区

都道府県名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
【複数回献血者確保について】			
茨城県	献血推進組織等の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所献血の推進 ・保健所、市町村との連携強化 ・献血推進ボランティアの育成強化 	安定的な献血協力者の確保
栃木県	<ul style="list-style-type: none"> ○複数回献血クラブ会員募集 ○パンフレットにより献血会場での募集 	○複数回献血登録者として、月200名を目標に確保する。	○血液不足時の献血者の確保が可能になる。
群馬県	複数回献血クラブの登録推進	複数回献血クラブの事業である健康相談等に対する協力。 市町村献血担当者会議における周知	健康相談事業等の充実
千葉県	各献血ルームで複数回献血クラブのポスターの貼付及びリーフレットの配布【血液センター】	献血者に対して、複数回献血クラブにより安全で安定的な血液の確保への理解を求める。	複数回献血クラブの会員を増やすことにより、安全で安定した血液の確保ができる。
東京都	1. 安全な献血者を安定的に確保するため、携帯電話のメール機能を活用し、効率的な運用を目的とする。	成分献血・400mL献血の登録者確保 メール等による最新情報の発信 メールによる成分献血予約の推進 定期的な献血要請や血液型ごとの緊急要請	従来のDMでの要請と比較すると、通信費の削減と献血応諾率が高いことから、効率的な運用が期待できる。また、レスポンスの良さから、緊急要請時等に効果がある。
神奈川県	血液センターが運営する「かながわ携帯メールクラブ」について、県民に対し広く情報を提供するとともに、会員募集の呼びかけについて協力する。	メールマガジン、成分献血の事前予約など、献血者の利便性向上をアピールすることにより、登録者の増加を図る。	利便性の向上により、複数回献血者が献血会場に足を運びやすくなる。
山梨県	献血者に献血登録制度について理解を求めるとともに、登録の依頼を行う ・献血不足時には登録者に対しハガキで献血を要請 ・「献血メールクラブ」への呼びかけ	血液センターからの「メール」で献血の緊急依頼や各種キャンペーン及びイベント等の情報提供を行う。	安定供給の確保に繋がる。
新潟県	複数回献血者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・複数回献血者への各種サービスの提供 ・ダイレクトメール等による協力依頼 	安定的な血液の確保
長野県	○複数回献血クラブ設置(血液センター) 200人の入会、更に充実を図る	○血小板献血ができる方を中心に入会者を募る	○特に急を要する血小板献血に関して、メールでの迅速な協力要請が可能となる
埼玉県	市町村・保健所・血液センターの三者による事業所訪問活動の実施	年間の献血実施回数を複数回実施していただくよう協力を依頼する。	安定的な献血者の確保を図ることが期待できる。
【企業等組織的な献血の確保について】			

献血推進における実施状況および取組について

ブロック名 関東甲信越地区

都道府県名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
茨城県	献血功労者表彰の実施	引き続き、献血推進運動の普及や献血推進に貢献のあつ団体等に対して、知事(日本赤十字社茨城県支部長)感謝状を贈呈する。	安定的な献血協力者の確保
栃木県	○献血組織の育成強化 ○献血団体に対する複数回実施の協力依頼	○献血会登録制度を推進を図る。 ○冬季における献血者の確保対策とする。	○一定数の献血者の確保が期待できる。 ○特に冬季における献血者数の増加が期待できる。
群馬県	①県庁献血の実施	・毎年、献血者数が減少する時期に、県庁献血を行う(3回/年)。	献血者が減少する時期に県庁献血を行うことにより、血液不足を解消する。
	②市町村献血の推進	・市町村献血担当者会議の開催 ・市町村民献血の実施	各市町村の献血担当者の献血に関する理解を深めることにより、市町村献血を推進する。
	③企業献血の推進	・県内11箇所ある保健福祉事務所(保健所)で、各管内事業所等の献血担当者を対象に研修会を実施する。	地域に根ざした研修を行うことにより、各事業所等における献血に関する理解を深め、企業献血への理解・協力をあおぐことができる。
千葉県	①年1、2回実施している事業所に対して、年3回実施の協力を要請【血液センター】 ②新規事業所の開拓【血液センター】	県内の献血状況等を説明し、年3回の献血実施の必要性に理解を求める。	効率的に献血者の安定的な確保ができる。また、新規事業所の開拓による献血思想の普及により、今後の献血者数の増加が期待できる。
東京都	1. 血液が不足する時期に安定的に確保できる企業へのシフト 2. 新規団体の確保	季節、時期に関わらず、安定して協力いただける団体の見極め。 市民・行政・赤十字が三位一体となり、企業等への一層の働きかけ。(未実施団体のリストを各自治体に提出する)	冬場等の血液が不足する時期に安定的な確保が見込め、季節による在庫不足解消が期待できる。 区・市長名(献推協会長)で、献血未実施団体に協力要請を行うことにより、新規団体の確保が見込める。
神奈川県	既協力団体に対し、年間数回の受入れ及び血液不足時の緊急的な受入れについて依頼する。また、新たな協力団体の確保等については、県からも依頼する。	年間を通じた受入れはもとより、血液の確保が困難となる冬期の献血受入れについても依頼する。また、状況を踏まえ各事業者団体に対しても文書等により県から協力をお願いする。	計画的な集団献血により、安定した血液の確保が可能になる。
山梨県	企業巡回に協力依頼及び名簿の作成	献血協力企業の掘り起こし	企業献血に対する協力体制の確保
新潟県	新規協力企業の確保と既存協力企業の継続確保	・企業訪問による新規協力企業の掘り起こし ・新聞広告で協力企業名を掲載	安定的な血液の確保

別紙様式2

献血推進における実施状況および取組について

ブロック名 関東甲信越地区

都道府県名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
長野県	○PTA献血の実施協力要請(血液センター) ○生命保険協会等に献血協力要請	○小学校、中学校の保護者に理解を得るため、保護者説明会を実施 ○協会各企業支社等への訪問協力要請	○小学生、中学生に献血の必要性を理解してもらえる。 ○血液センター、献血ルームの献血者増に貢献
埼玉県	市町村・保健所・血液センターの三者による事業所訪問活動の実施	社会貢献活動として献血活動への理解を求めていくこと。	新規の献血実施事業所の確保により、安定的な献血者の確保を図ることが期待できる。
【その他】			
栃木県	○日祭日の街頭献血等への積極的な献血車の配車計画	○1台あたりの確保人数の増加を図る。	○企業献血が低迷しているので、街頭献血など人が多く集まる場所での実施することにより、新規献血者確保及び献血の啓発に繋がる。
新潟県	ボランティア組織との連携強化	・ボランティア組織への献血の情報提供	献血協力団体の増加
長野県	○献血体験ルームの開設 ・大型店に3日間、県下3会場、イベント実施	○若年層への広報、献血協力要請 若年層が興味を持つイベントの実施	○若年層が入りやすい会場の雰囲気作りにより、若年層献血者の確保を図る。
埼玉県	①献血フォーラムの実施 ②浦和レッズ選手を起用した推進ポスターの作成 (①②血液センター)	①献血意識の向上を図る。 ②スポーツ選手を通じ幅広い層への啓発を図る。	①献血への理解と協力 ②安定的な献血者確保

(注) 内容については簡潔にとりまとめること。

別紙様式2

献血推進における実施状況および取組について

ブロック名 東海・北陸・近畿地区

府県名	事項名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
富山県	【若年者確保について】	献血に関するシネアド広告及びテレビコマーシャル	若年層の視覚に訴えることにより、献血意識を啓蒙する。	献血意識の高揚
	【複数回献血者確保について】	初回献血者への葉書の送付	献血の必要性をアピールするとともに、複数回献血への意欲を喚起する。	献血のリピーター確保及び献血登録者の増加。
	【企業等組織的な献血の確保について】	献血推進協議会に商工会議所、経営者協会等の県会長を充てている。 企業への献血車両配車時における周辺企業への協力要請。	継続的な献血協力 市町村の責任において、周辺企業へ協力要請すること。	各企業での献血事業への協力を期待できる。 周辺企業からの協力も得られる。
石川県	【若年者確保について】	①中学生に対する献血教育推進 ②高校生献血の推進 ③大学祭での献血キャンペーンの実施	①中学生を対象とした献血ポスターコンクールの実施。優秀作品を献血普及啓発資材として活用。 ②高校1年生を対象とした献血読本の配付。 ③大学祭において啓発資材を配付する。現場に採血車を配置する。	①普及啓発事業へ参加することにより、献血可能年齢に達した時に、献血に対する抵抗を少なくできる。 ②献血に対する正しい知識を得ることにより、自主的に献血に参加してもらえる。 ③大学生や参加者への普及啓発ができる。現場での採血車により直接献血に参加してもらえる。
	【複数回献血者確保について】	(県) 多数回献血者の顕彰(知事感謝状贈呈) (血液センター) ①複数回献血クラブを設立し、ポスター、リーフレットを作成し、大学・事業所、採血現場等で配付 ②健康相談事業(肝炎関係(月1回)、健康全般(月4~5回))の実施 ③ホームページによる普及啓発	(県) 継続的献血の奨励 (血液センター) 複数回献血クラブの会員の確保	(県) 献血ボランティアの励みとなり、継続的協力が得られる。 (血液センター) 一定量の血液を確保できる。必要とする血液を確保できる。
	【企業等組織的な献血の確保について】	(県) 継続的協力企業等の顕彰(知事感謝状贈呈) (血液センター) 渉外活動等において、情報の収集を行い協賛企業の確保に努めている。	(県) 組織的、継続的協力の奨励 (血液センター) 関係部局との連携強化。新規協賛企業の確保。	(県) 計画的な血液量の確保及び緊急時の協力要請 (血液センター) 一定量の血液を確保できる。

別紙様式2

献血推進における実施状況および取組について

ブロック名 東海・北陸・近畿地区

府県名	事項名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
福井県	【若年者確保について】	・「はたちの献血」キャンペーン中に、ショッピングセンター内に臨時採血所を設け献血を呼びかけている。・学生献血推進連盟の活動による献血の実施と広報活動	・若年層が多く集まる場所での啓発。・若年層が主体となった啓発。	・若年層の献血に対する理解、協力を得られる。
	【複数回献血者確保について】	・血液が不足しているとき、成分献血を安定的に確保する必要があるとき等に、携帯電話を利用して、あらかじめ登録していただいている方にメールで献血のご案内を配信している(複数回献血クラブ)。・成分献血回数に応じて規定のポイントを付与するポイント制を導入し、ポイントに応じた処遇品の提供を行っている。	・複数回献血者の確保。	・安定した血小板製剤の確保。
	【企業等組織的な献血の確保について】	・県庁、市役所等での定期的な献血の実施。・新規事業所の開拓。・事業所担当者との連携強化。	・献血者の確保。・事業所およびその職員への協力依頼、事前打ち合わせの強化。	・安定した血小板製剤の確保。・職員の理解度が向上し、献血者数の増加が見込まれる。・企業の地域貢献が明確になり、継続的な協力や緊急的な計画に対応できる。
	【その他】	・血液センター施設見学。	・特に小中学生を対象。	・将来の献血協力者への普及啓発。
岐阜県	【若年者確保について】	・リーフレット作成 ・学校関係者に協力依頼	・中学3年生、高校2年生に対しリーフレットを配布 ・保健所担当職員が高校、短大、大学、専門学校等を訪問して協力依頼 ・高等学校長会、高等学校保健担当者会において、資料を配付し協力依頼	・若いうちに献血についての正しい知識を得ることによる、将来の献血者の増(安定確保)
	【複数回献血者確保について】	・複数回献血の推進	・複数回献血者クラブの会員を募集 ・同一事業所へ複数回の配車を依頼 ・新規献血者に対して再度の献血を勧めるリーフレットを作成(H16年度)し、配布	・複数回献血者の増
	【企業等組織的な献血の確保について】	・献血協力団体との協働、意見交換	・ぎふ献血サポーターズクラブ(献血ボランティア団体及び企業の横断的組織)の支援	・献血者減少時期における組織的協力の確保
	【その他】	・献血関連作品募集 ・「献血感謝の集い」開催	・17年度は短歌を募集、18年度は標語を募集 ・献血功労者の表彰とともに、健康関連の講演を実施	・県民に、献血についてより身近に感じてもらう。

別紙様式2

献血推進における実施状況および取組について

ブロック名 東海・北陸・近畿地区

府県名	事項名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
静岡県	【若年者確保について】	①高校生を献血広報ボランティア「アボちゃんサポーター」に委嘱し、保健所とともに地域、学域において啓発活動や献血広報を実施する。 ②高等学校養護教諭と打合せ会を開催する。	①高校生が、献血広報や献血を体験すること等により、献血への理解を深める。 ②高等学校のより一層の理解と協力を得る。	①若年層の献血思想の定着、初回献血の実施。 ②高等学校等の連携。
	【複数回献血者確保について】	血液センターが実施する複数回献血協力者確保事業に、県内市町とともに広報を行う等協力する。	効果的な広報の実施。	より多くの複数回献血者を確保し、血液製剤の安定供給及び安全性の向上。
	【企業等組織的な献血の確保について】	①県庁や県の出先機関を会場とした献血を定期的実施するなど献血に協力する。 ②献血協力団体「アボちゃん協力会」に定期的に献血情報を提供する等一層の協力を求める。	新規献血協力団体の開拓。	献血に協力しやすい環境整備。
愛知県	【若年者確保について】	①若年層に対する知識普及・啓発 ②小児期からの献血教育の推進 ③若年層を中心としたボランティア団体への支援	①高校生2年生全員・大学生・新成人を対象としたパンフレットの配布 ②小学生の親子(100組)を対象とした献血セミナーの開催 ③学生クリスマス献血キャンペーンの実施	①②③若年層への献血思想への普及
	【複数回献血者確保について】	新たな複数回献血者層の拡大及び現在の複数回献血者の人数維持	7月・11月に複数回献血キャンペーンを実施し、複数回献血の推進を図る。	複数回献血者の増加
	【企業等組織的な献血の確保について】	企業等における献血推進のため、企業等の献血組織の育成を図る	貢献度の高い企業等の献血組織を対象に、知事表彰、感謝状の贈呈を県献血推進運動大会等の席上で行う	組織的な献血者の確保
	【その他】	県職員による献血の推進	献血環境の整備 ・職免の措置 ・副知事名の実施協力要請文書の発出 ・夏季・冬季・緊急時における官庁街献血の実施	組織的な献血者の確保
愛知県赤十字血液センター	【若年者確保について】	若年層用DVDの作成、小中学生向け献血ポスターの作成	若年層への啓蒙	献血への理解度向上と献血を身近に感じられる。
	【企業等組織的な献血の確保について】	新規団体の開拓、献血優良企業の複数回献血の実施	複数回献血の実施	安定した血液の確保
	【その他】	献血推進機関との連携強化	情報の共有	安定した採血計画

別紙様式2

献血推進における実施状況および取組について

ブロック名 東海・北陸・近畿地区

府県名	事項名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
三重県	【若年者確保について】	大学・専門学校での献血	学生ボランティアによる企画運営	献血への理解
		高校生献血	18歳以上の対象者	献血経験を得ることによる周囲へのPR
	【複数回献血者確保について】	献血応募者の利用	年1回の献血者を対象に定期的に電話依頼	電話をすることにより献血を身近なものに
		献血メールクラブ会員の募集	企業での会員を増やす	職場以外での献血を増やす
	【企業等組織的な献血の確保について】	少人数の企業への呼び掛け	相手企業に合わせた献血	小口の献血団体の確保
【その他】	メディアの使用	献血場所の告知	献血者への意識付	
滋賀県	【若年者確保について】	・広報、啓発 ・献血学習事業	高校生および中学生を対象とし、国および県のキャラクターを用いた資料・広報等を活用した啓発 高校2年生を対象とした献血の学習の実施。	若年齢層が献血の重要性などを理解し、今後の献血者の安定確保となる。
	【複数回献血者確保について】	・複数回献血クラブの設置	携帯電話、パソコンを利用した献血登録者の募集 滋賀県HPへの掲載による設置周知。 複数回献血者に対する健康相談等の実施。	血液在庫不足時および平常時に登録者に対し機動的、効率的に呼びかけを行うことが可能となる。
	【企業等組織的な献血の確保について】	・市町による配車計画 ・献血推進協議会委員	市町から企業に対しての集団献血の依頼。 献血推進協議会関係諸団体委員による事業所献血の推進。	一定量の血液の確保。 献血しやすい環境作りと献血のための休暇取得への配慮。
大阪府	【若年者確保について】	携帯ウェブサイトによる献血情報の発信	若年者層が献血情報に触れやすい環境を整備する。	携帯電話の普及率が高い(特に若者)昨今、携帯電話を使った様々な情報入手が、一般的になっていることから、献血離れの著しい若年者層に対する献血意義の普及啓発を図る。
	【複数回献血者確保について】	標語(キャッチフレーズ)募集事業	複数回献血への協力を共感できるような標語を中心に募集を行った。	本募集事業の応募作品から選ばれた入賞作品を、献血啓発の際に活用する媒体等へ掲載することにより、複数回の献血協力を図る。
	【企業等組織的な献血の確保について】	企業等の講習会における献血への協賛依頼	既存の献血協力企業以外の企業の掘り起こし。献血協力に加えて街頭活動に対する企業等の協力を依頼。	献血協力企業の増加。献血街頭活動への企業の参加により、企業の知名度を利用して府民の献血への共感を得る。

別紙様式2

献血推進における実施状況および取組について

ブロック名 東海・北陸・近畿地区

府県名	事項名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
兵庫県	【若年者確保について】	高校生ボランティアを県知事から「献血啓発サポーター」として委嘱し、文化祭等の場を活用して啓発活動を展開する。	身近な救命ボランティアである献血について高校生が興味を持ち、積極的に参加できるよう配慮する。	献血ボランティアへの参加を通じ、若年層の献血への理解を深めることにより、将来的な献血者の確保につながると期待できる。
	【複数回献血者確保について】	7月の「愛の献血助け合い」運動月間及び12月の「はたちの献血」キャンペーン等において、複数回献血についても併せて啓発することとしている。	保健所、市町等を通じ、関係機関等への幅広い周知を図る。	献血者の確保
	【企業等組織的な献血の確保について】	献血者数に減少傾向がみられる夏期(8月)及び年末年始(12～1月)の期間を献血推進強調月間(期間)とし、この期間に、県内の主要企業・団体に対し、献血受入について協力要請している。	常時安定した血液の確保が必要である旨を説明し、献血協力についての理解を求める。	街頭献血等が減少傾向となる時期の献血を確保し、年間を通した血液の安定的な供給に寄与する。
兵庫県血液センター	【複数回献血者確保について】	県下4献血ルームにおいて計21回の管理栄養士による栄養相談を行った。	献血に来られた献血者や献血不適格者が食生活を中心とした日常生活に注意され、今後も献血できる健康を保持していただくことで献血の拡大につなぐ。	献血ルームに来られた献血者、献血不適格者、またその家族などの希望により相談業務を受付けたところ、血液比重、中性脂肪、高血圧などの多岐にわたる相談を受付することができ、好評で「ご指導いただいたことを注意し、また献血に来ます。」との献血者からの声も多かった。
	【その他】	1. 行政機関への献血バス臨時配車	従前から県下の行政機関には職員に献血いただいているが、17年々末は降雪などで献血バスの配車が急きよ中止になる場合もあり、特にO型を中心とした在庫が危機的であり、その状況回避のために県庁や神戸市などに臨時献血を依頼、実施いただいた。	O型を中心とした献血を行い、通常の計画献血以上に多くの職員に協力いただき、危機的状況が回避できた。
		2. 市・町合併にかかる行政の献血取組強化について	兵庫県では市町合併により、旧(平成17年3月31日)25市52町が(平成18年3月31日現在では)29市12町になった。その中で各市町の献血推進への取り組みが消極的になっているケースが多い。例えば、献血担当者が旧体制の各町5人が新市では1人となり、①従前はできていた計画献血が組めず、事業所や団体への献血依頼ができない。②献血受入れ会場の手配ができない。③これまで広報紙や防災無線放送、自治会長を通じ地域住民に献血協力の理解を深めることができていたが、できなくなった。などきめ細かな推進ができなくなっている。これらについて地方公共団体の責務としての献血推進をお願いして行くこと。	今後の献血者の確保に不可欠な、地域をあげての献血推進への取り組み。

別紙様式2

献血推進における実施状況および取組について

ブロック名 東海・北陸・近畿地区

府県名	事項名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
奈良県	【若年者確保について】	将来の献血を担う若者に対する献血の意義や必要性の知識普及	少子高齢化社会において、献血が自己と無関係の特殊な行為ではなく身近な日常的善意として気軽に若者が献血に参加できるようにすることが必要であるとの理解を学校に求め、啓発物品配布とともに学校単位の「高校生献血」を協力依頼	献血可能となる学生にいち早く、献血の意義や必要性の知識普及を行い、より効果的・効率的に若者献血を推進し、少子高齢化社会に伴う血液不足問題の解消と将来的な血液の安定確保につなげる。
	【複数回献血者確保について】	献血推進のための普及啓発・広報活動	報道機関への積極的な資料提供等による広報活動並びに街頭献血キャンペーンの実施	幅広い年齢層の方に対する献血思想の普及と定例献血場所の周知により、複数回献血を促進する。
	【企業等組織的な献血の確保について】	献血推進組織の育成と献血協力団体の確保	市町村献血事務担当課職員研修の実施、ボランティア活動の推進並びに各種既存団体への献血協力依頼	地域と最も密接な市町村職員の研修により必要な情報を県民と各種団体へ円滑に提供し、ボランティア団体や献血協力団体の献血活動参加を促進して献血運動の活性化と献血推進活動の基盤強化により、組織的な献血協力を推進する。
	【その他】	献血運動啓発ポスター募集並びに献血功績者表彰	広報誌等による県内在住・在学・在勤の幅広い年齢層の方への「献血運動啓発ポスター募集」及び入賞作品の表彰と大型スーパー店内での展示並びに他の模範となる献血功績のあった団体を表彰する「献血功績者表彰式」の開催	広く県民各層に献血運動をPRし、献血に対する理解を深めることにより、献血推進に寄与する。
和歌山県	【若年者確保について】	高校生献血の推進	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭以外での献血実施(健康診断時及び授業中) 文化祭ではパネル、パンフレットによる啓発 献血推進ポスターの募集 県内での養護教諭の代表集会における献血に関する講演会実施 	<ul style="list-style-type: none"> 時期が分散される事により、より多くの学校に協力を依頼できる。 参加型啓発として、献血に対する理解を深める事ができる。 養護教諭に献血の重要性について理解を深めてもらう事により、若年者への献血啓発がより推進される。
	【複数回献血者確保について】	献血登録者の拡大	成分登録者は定期的にメール、ハガキ等により献血ルームへの来所を依頼、全血登録者は不足時期(春・夏・秋)に合せ同様の依頼を行う。	安定的な血液の確保につながる。
	【企業等組織的な献血の確保について】	<ul style="list-style-type: none"> 企業献血の担当者への継続的な情報提供 県職員の献血 	血液情報、献血事情を詳細に示し、より多くの参加者の協力を依頼する。	<ul style="list-style-type: none"> 事前に協力依頼をする事により、確実に血液を確保する事ができる。 上記の他、緊急時に対応する事ができる。

別紙様式2

献血推進における実施状況および取組について

ブロック名 東海・北陸・近畿地区

府県名	事項名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
京都府	【若年者確保について】	1 京都府学生献血推進協議会への支援と協働 2 大学等への働きかけによる大学献血の推進 3 若者向け広報媒体の活用による啓発の実施	府内の大学生等により組織された京都府学生献血推進協議会との連携を強化し、キャンペーンに対する支援、学生向け情報誌への広報記事掲載や施設見学会の実施等、協働体制を推進。	若年層自らがキャンペーン等を通じて献血の重要性を広く訴え、若年層の共感を得ることにより、若年層献血を推進。
	【複数回献血者確保について】	1 献血者への継続的な情報提供 2 複数回献血クラブの組織化	血液センターに登録された献血者に対し、機動的・効率的に呼びかけを行える体制の整備促進。	血液製剤の在庫不足時における献血者の確保。
	【企業等組織的な献血の確保について】	1 事業所等への協力要請 2 移動採血車の配車体制の整備	事業所等への献血受入の要請、献血ルームの周知・利用促進のための協力依頼。	安定的な血液の確保。
	【その他】	1 献血を通じた健康づくりの支援 2 府庁における職員献血の実施	1 献血者への健康づくり関連情報の提供、栄養士による食生活改善指導(大学献血実施時)の実施。 2 夏季・冬季における職員献血の実施のほか、臨時の職員献血も実施。	1 献血を通じて健康づくりを支援する中で、献血者を確保。 2 組織的に献血者を確保。
京都府血液センター	【若年者確保について】	1. 京都府学生献血推進協議会との連携 2. ホームページやEメールの活用 3. 学生用機関誌[ガクシン]への記事掲載	大学生を中心とした学生献血推進協議会との連携を図り、これを強化することで大学献血の推進のみならず、キャンペーンを通じて若者に献血の重要性の理解を得、献血参加を促す。	若年層の献血協力を推進できる
	【複数回献血者確保について】	1. 再来促進のキャンペーンの実施 2. 献血ルームの広報 3. 再来を動機付ける接遇や献血環境の向上	特に400mL献血の再来を促し、安全な血液を安定的に確保する。	400mL献血を増加させ、より安全な血液を安定的に確保できる。
	【企業等組織的な献血の確保について】	1. 渉外活動の強化 2. 型別献血への理解と協力の依頼	企業の担当者に、400mL献血の推進と200mL献血の抑制の必要性の理解を得る。また、型別の不足に対応するため、型別献血の協力を依頼。	400mL献血を増加させ、より安全な血液を安定的に確保できる。また、型別の不足に対応できる。
	【その他】	1. 全国統一キャンペーンの実施 2. 献血ルームの受付時間の変更(延長)	キャンペーンの周知を行う。また、400mL献血の増加を図る。	全国統一キャンペーンと連動することにより、効率的で効果的なキャンペーンが実施できる。受付時間の延長により、献血者の利便性を確保し、400mL献血者の増加が期待できる。

献血推進における実施状況および取組について

ブロック名：中国四国

都道府県名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
鳥取県	【若年者確保について】 ○高校生ボランティアの協力を得て街頭献血キャンペーンや研修会を開催。また、小・中学生を対象にした見学会を開催。	○各高校を個別に訪問したり高校校長会で献血協力要請及び街頭献血キャンペーンへの参加をお願いする。また、夏休み中に血液センター見学会を開催する。	○若年者が献血の必要性を学ぶことは、意識の高揚につながるとともに、小・中学生からの啓発は献血への理解が得やすく保護者の理解も得られる。
島根県	○高校生ふれあいキャンペーン(7月から9月)や高校生献血サマースクール、献血出前講座を実施。	○高校を対象に血液センターの施設見学会や学習会を実施し、献血の重要性を実感してもらう。さらに、保健所職員が各高校に出向き、献血に関する講座を実施することで、献血に関する知識の普及を図る。	○高校生に、身近なボランティアの一つである献血に対する理解を深めることにより、献血者の減少を抑制し、血液製剤の安定的な供給に資する。
岡山県	○高校生献血の推進や幼・小児期からの献血教育の推進	○国や県作成のパンフレットを活用したホームルーム活動等を実施。また夏休み期間中、小学生児童の親子を対象に体験教室を実施。	○幼・小児期からの正しい献血知識の普及啓発と献血思想の醸成や父兄への献血思想の普及。
広島県	○若年層の献血への理解を深め、関心を高めるための啓発活動を実施	○啓発資材の活用依頼や学校関係者に対する献血知識の普及啓発を行う。また、中・高校生を対象とした啓発用ポスター募集や小学生の体験学習会の開催、学生ボランティア活動の支援などを実施。	○献血離れの著しい若年層献血者の確保と、献血意識の向上を図る。目標：献血者全体の35%
山口県	○はたちの献血キャンペーン、高校卒業記念献血キャンペーン、中国・四国統一キャンペーン、全国学生クリスマスキャンペーン、献血推進ポスター・作文の募集、献血読本配布による啓発などを実施。	○高校生、大学生、専門学生など若者の参加型イベントを実施し、献血への参加や啓発活動を推進する。また、中学生や高校生の献血意識の醸成にも重点をおく。	○若年層への啓発及び献血者の拡大
徳島県	○今年度新規事業として「献血メイト20's推進事業」を実施し、将来にわたって安全な血液製剤を安定して確保するため、若年層(特に20歳代)献血の一層の推進をはかる。	○初回献血者の確保と複数回献血者への移行のため、献血メイト20's推進キャンペーンやニュードナーメイト制度の推進を行う。	○若年層への献血思想の普及・啓発や初回献血者(若年層)の確保、Let'sクラブとの連携による緊急時献血者の確保が期待できる。
愛媛県	○小学生親子血液センター見学体験教室の開催や学校に対する普及啓発資材の配布、献血出張教室等の開催、大学におけるボランティアサークルに対する活動支援などを実施。	○特に高校生や献血可能年齢に満たない小・中学生に対する献血思想の普及啓発を図る。	○早期からの献血思想の普及啓発により献血者の献血離れを軽減することが期待できる。
高知県	○中高生を対象とした授業や学生ボランティアによるキャンペーン	○献血意識の定着や同世代の呼びかけによる価値観の共有。	○献血の必要性を理解し、将来の協力者を確保するとともに、若年献血者の確保が期待できる。
香川県	○リーフレット等を作成し、配布。また、高校生献血キャンペーンと題し、献血に関する学習や、高校生による献血協力呼びかけのボランティア等を実施。	○啓発対象や内容を再検討するとともに、キャンペーンの実施回数や実施場所を拡大し、より多くの生徒にボランティアの体験をしてもらう。	○少ない予算で効果的な広報が行えるとともに、献血を身近なものと感じてもらうことで、将来的に若年層献血の増加につながる。

鳥取県	【複数回献血者確保について】 ○県庁LANの掲示板を活用しての呼びかけ	○不足時の献血協力依頼	○緊急時の献血者の確保
島根県	○成分献血、希少血液献血登録制度の推進	○新規登録者の発掘	○血小板製剤等の安全で良質な血液の安定供給に資する。
岡山県	○複数回献血クラブの周知	○広報リーフレットを作成し、複数回献血クラブの周知を図る。	○複数回献血クラブへの登録者の確保
広島県	○献血者に対する次回献血の案内等の実施	○次回献血の案内等の周知や献血不適者(比重不足)に対する健康管理のアドバイスを実施。	○計画的な年間献血者の確保が行えることにより、安定的に適正在庫数量の確保が行える。
山口県	○前回献血者に対し、電話での協力依頼や複数回献血クラブ会員の募集及び活用(血液センター)、県職員及び市町村職員献血協力者名簿の作成(県)	○複数回献血者の確保や献血者への情報提供。	○献血者の確実な確保や緊急時等の協力要請
徳島県	○初回及び5回献血者への記念品(5回献血者には知事感謝状)	○血液センター「Let's献血クラブ」との連携(報償費に関しては一部県負担)。	○ニュードナーメイト制度(県)による初回献血者を確保し、Let's献血クラブ(センター)による複数回献血者登録をすることで、緊急時対応が可能となる。
愛媛県	○平成18年3月17日から募集開始した「リピートあいピー」により、情報誌及び電子メール等による情報発信や健康相談事業(クイックマッサージ)を実施。	○複数回献血協力者の健康増進を目的として、クイックマッサージを実施予定。	○安全な献血者を安定的に確保することができる。また、献血者に対しては積極的な情報提供及びサービス提供により、満足度を高めることができる。
香川県	○血液センターにおいて、複数回献血クラブの運用を開始し、電子メールによる献血依頼を拡大。	○携帯メールによる献血依頼や情報発信が可能な若年層を主なターゲットとし、複数回献血クラブへの登録を推進するためのPRを積極的に行う。	○若年層を中心とした、より安全性の高い血液を安定的に確保することができる。また、成分献血の増加が期待できる。
鳥取県	【企業等組織的な献血の確保について】 ○企業団体献血の推進強化、集団献血の推進	○保健所ごとに献血推進員を配置し、保健所と献血推進班を組んで企業団体を訪問し、協力依頼する。各市町村との連携強化も図り、効率的な献血者の確保を図る。	○安定的な献血者の確保
島根県	○県献血推進協議会長からの感謝状贈呈	○献血推進に著しい功績のあった団体等に感謝状を贈り、当該団体の献血推進運動への継続的参加と他の団体の運動への参加意欲を喚起する。	○地域の大手企業等への運動の参加により、当該地域全体に献血の重要性を普及啓発できる。
岡山県	○新設事業所等への配車計画	○新設の大型事業所等への移動献血車の配車。	○継続的な献血者の確保
広島県	○集団献血の推進を図り、安定した適正在庫数量の確保	○職域・学域に対する献血意識の向上と協力要請の実施や在庫数量の不足が予想される場合の緊急献血要請、地方自治体による集団献血を実施。	○安定的に適正在庫数量の確保が行える。また、不足予想時に緊急対応が図られる。
山口県	○新規団体・事業所等への訪問活動	○新たな献血協力団体の発掘	○献血者の増加及び拡充

徳島県	○事業所献血等の減少対策	○効率的な配車計画、市町村・主たる事業所等との打ち合わせ、合併による市町村等の窓口・担当者の確認、センターにおける業務態勢の見直しなど。	○新しい事業所の開拓及び閉鎖等事業所の把握により効率的な配車計画が可能。また、献血事前周知の徹底等が図られ、効率的・安定的な採血が可能。
愛媛県	○県、市町等行政機関における献血依頼、経済関係団体に対する協力要請、街頭献血の推進	○献血受入れ体制の整備及び充実や献血者に対する献血知識の普及啓発。	○計画的で効率的な献血を行うことができる。
高知県	○商工会等への協力要請(H18実施予定)	○現状の情報提供と協力の必要性を理解してもらう。	○男性献血者の確保、400ml献血者の増加
香川県	○従業員数が比較的多い企業等では、大部分の献血協力を得られているものの、年1回が多い。	○大企業を中心に、可能な範囲で複数回の献血を依頼していく。また、400ml献血および成分献血の必要性を十分に周知する。	○効率的に年間を通して安定量を確保することができる。
鳥取県	【その他】 ○県職員への啓発や県・市町村における献血推進協議会の開催	○新規採用者研修のカリキュラムに組み入れる。また市町村担当課長と担当者を対象にした研修会の開催。	○献血事業に対する理解の拡大や地域に合った効率的な献血者の確保。
広島県	○各市町献血推進協議会の開催及び献血推進組織の育成並びに血液製剤の適正使用の推進	○県内の献血推進協議会及び地域献血協力団体の研修の実施や各医療機関における血液製剤の使用指針等の周知。	○地域献血推進活動の活性化及び円滑な献血者の確保、並びに血液製剤の使用適正化が図られる。
高知県	○マスコミ、広報誌を通じた啓発や担当者会(市町村、保健所)の開催、献血推進員への情報提供	○現状の情報提供と積極的な取り組みの必要性を理解してもらう。	○取り組みの地域間格差を減らす。
香川県	○献血推進団体の血液事業に対する理解を深めってもらうため、講習会等を開催。	○地域献血や街頭献血時に推進活動の更なる協力を依頼する。	○効率的に年間を通して安定量を確保することができる。

(注)内容については簡潔にとりまとめること。

献血推進における実施状況および取組について

ブロック名 九州地区

県名	事項名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
福岡県	【若年者確保について】	○学生献血推進協議会の育成	○福岡県には、北九州と福岡の2つの学生献血推進協議会があり、地域の各大学の献血サークルとの情報交換や20歳の献血での啓発活動などにも積極的にかかわっている。これらの活動と連携することにより、活動の強化を図っていく。	○400mlの献血に参加できる年齢に達している若者が早い時期から、献血やその活動に参加することにより、複数回献血者として定着することが期待される。また、ボランティア意識の高い若者に献血活動にも関わってもらい、啓発のリーダー的役割を果たしてもらおうことが期待できる。
	【複数回献血者確保について】	○職場献血における複数回献血者への情報提供	○県では、血液型に応じた献血について、個人に献血要請できるよう登録制度を導入した。登録は、複数回献血への意思確認及び情報提供につながることから、個人情報に配慮しながら進めていきたい。今後は県庁だけでなく、市町村等にも検討を促す。	○健康状況の不適格や渡航に伴う献血制限により、職域献血においては厳しい状況にある。このため、新たな複数回献血者の確保及び定着化のため、効果が期待できる。
	【企業等組織的な献血の確保について】	○ライオンズクラブ等との合同研修会の実施	○研修会における研修内容の充実を図る	○企業等の組織的献血では、トップの献血に対する理解と協力の姿勢が重要であることから、研修の充実を図ることで、組織的献血の促進が期待できる。
佐賀県	【若年者確保について】	①高校生を対象とした献血教室(パンフレット等の配布)卒業記念献血の実施 ②「はたちの献血キャンペーン」にあわせイベント開催	②アーティスト等によるライブやトークショーを行い、20～30代の若者に献血についてPRする。ラジオスポットによるイベント告知。	②当日の献血協力や若者への啓発。
	【複数回献血者確保について】	○献血者登録制度の推進 (Eメール・携帯電話献血者登録制度)	○Eメールで移動採血車計画、献血に関するイベント等の案内を行い、緊急時や血小板成分献血の呼びかけを携帯電話で連絡する。	○あらかじめ登録者を確保しておくことにより、安全で良質な新鮮血液等の血液製剤を安定的に供給する体制を確立する
	【企業等組織的な献血の確保について】	①献血推進協力団体に対する感謝状等の贈呈 ②「市町成分献血の日」事業の推進。(成分献血が血液センターのみでしかできないので、遠方の献血者へ便宜を図るため、市町に献血者を集めてもらい血液センターが送迎する事業) ③血液が不足する冬場の時期(11月～3月)に県職員による成分献血を実施している。(職免で対応)	②市町村合併に伴い担当職員が変わり、市町に献血者確保の意識をもってもらう。	②遠方の成分献血希望者へ献血の機会が与えられる。 ③庁内放送や掲示板で職員へ献血を呼びかけることで献血意識の向上にもつながる。

別紙様式2

献血推進における実施状況および取組について

ブロック名 九州地区

県名	事項名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
長崎県	【若年者確保について】	○学校等へのボランティア活動である献血についての情報提供。 ○献血に関するセミナーや血液センターの見学会等の開催推進。	○若年層への献血に関する情報提供。	○献血者の確保及び献血可能年齢に達した後の献血への協力。
	【複数回献血者確保について】	○献血登録制度の推進。	○県庁内での登録の推進。	○必要時の献血協力者の安定確保。
	【企業等組織的な献血の確保について】	○企業等への積極的な呼びかけ。	○緊急時協力可能な企業の開拓。	○緊急時の献血者確保。
	【その他】	○市町献血協力会の整備。	○市町担当課長会議等での要請。	○効率的で安定した献血者の確保。
熊本県	【若年者確保について】	①啓発資材の作成配布並びに映画献血CMフェア ②学生献血推進協議会における学内献血活性化及び学園祭等での啓発活動の支援 ③高校生対策として、学校への事業説明・啓発	②学生が主体となって献血に取り組んでもらい、献血の必要性・重要性について理解を深めること。	②、③学生時代に献血を経験することで、社会人になってからも気軽に献血に協力できる。
	【複数回献血者確保について】	①献血受付時に次回献血についての承諾を得て、血液センターから協力依頼を行っている。 ②献血者に次回の献血可能日を知らせ、複数回献血への協力を呼びかける「知事からのメッセージ」を配布している。		○献血者の確保が比較的容易になる。 ○緊急時又は季節的な血液不足に対応しやすい。
	【企業等組織的な献血の確保について】	○各献血協力企業等内に行行政等との連絡調整要員として、400名の献血推進リーダーを配備し、組織的かつ安定した献血者の確保を図っており、特に400ml献血の推進に力を入れている。	○各リーダーと献血日程を取り決めておき、勤務時間における当日の献血が効率よく実施できるように調整する。年1回、リーダー研修会を設けて、献血の現状を説明し、リーダーを通して献血への理解と協力を得るようにしている。	○組織的な企業等団体の献血を継続して実施するとともに、献血者の増加が見込める。
	【その他】	①小・中学生に対するPRパンフレット等の作成 ②中学生による献血壁新聞の作成支援	○小・中学生の頃から献血を話題にしてもらい、献血の輪を拓げていく。	○早い時期から献血について認知してもらい、献血への理解を深め、将来の献血者予備軍になってもらいたい。

献血推進における実施状況および取組について

ブロック名 九州地区

県名	事項名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
大分県	【若年者確保について】	○中学卒業予定者に献血マンガ本を配付。 ○高校・短大・専門学校等の卒業予定者には啓発物品とリーフレットを配付。 ○学生献血推進協議会のメンバーによる学生街頭献血応援団(献血サポーター)を編成し、献血の呼びかけ。 ○学内献血では400ml献血者に夜食セットを配付。	○卒業予定者一人一人に配付し、献血の必要性・重要性を訴える。 ○若年者に献血の意義を理解してもらう。	○若年層の献血者の増加が見込まれる。 ○学内献血での400ml献血者の増加が見込まれる。
	【複数回献血者確保について】	○検査結果正常の初回献血者に対して、複数回献血クラブ入会申し込みをお願いする。	○安全な献血者の安定的な確保を図るため、血液・医療・健康関係の専門家を講師として講演会や健康相談室などを開催する。	○複数回献血者が増加し、年間を通してより安全な輸血用血液の安定確保が図られる。
	【企業等組織的な献血の確保について】	○新規企業については市町村の担当課長等と同行してもらい協力依頼する。また、業種毎の組合や団体に協力依頼し、新規の献血者や団体の拡大を図っている。その他、幼稚園や小学校のPTA献血にも取り組んでいる。	○各事業所にはポスターや渉外による献血の推進を図り、ライオンズクラブには献血セミナーを開催している。	○献血者底辺の拡大による年間を通じた輸血用血液の安定確保が図られる。
	【その他】	○献血協力団体及び多数回献血者に対する知事表彰・感謝状の贈呈。 ○献血優良団体への血液センター所長感謝状の贈呈。	○できるだけ贈呈の場を設定し、マスコミに情報提供し取材してもらい、広く県民に周知している。	○今後、より一層の献血に対する意識の向上につながり献血者の増加が期待できる。
宮崎県	【若年者確保について】	○テレビコマーシャル制作・放映の実施。	○若年層を対象としたテレビコマーシャルを制作し、7月の「愛の血液助け合い運動」及び1月から2月の「はたちの献血キャンペーン」の期間に放映することによって、献血協力者の拡大を図る。	○献血に対する理解を深めてもらうことにより、若年層を中心とした献血協力者を確保できる。
	【複数回献血者確保について】	○宮崎県複数回献血クラブの登録推進。	○1年に1回しか献血に協力いただいていない方に対し、2回以上の協力をお願いして、クラブへの登録を推進する。	○複数回献血者が増加し、年間を通じて献血協力者を安定的に確保できる。
	【企業等組織的な献血の確保について】	○献血協力企業や団体への献血推進リーダーの設置及び研修会の開催。	○組織的献血の推進及び企業や団体との連携強化を図る。	○企業や団体に、年間をとした献血の協力体制を整備し、献血者を安定的に確保することが期待できる。
	【その他】	○毎月、新聞紙上に、献血の情報や成分献血協力実績のあった企業名や団体名の掲載。	○成分献血の協力企業名や団体名を新聞紙上に掲載することによって、献血を社会貢献活動の一つとして位置づけ、成分献血協力企業等の育成を図る。	○成分献血の協力企業等を育成することによって、成分献血者を安定的に確保することが期待できる。

献血推進における実施状況および取組について

ブロック名 九州地区

県名	事項名	取組の概要	取組で重点をおく事柄	期待できる効果
鹿児島県	【若年者確保について】	○県内の中学3年生を対象とした血液教育事業 ○学生献血推進協議会の育成	○血液に関する知識の普及啓発 ○学生献血推進協議会主催による各種献血キャンペーンの実施	○献血可能年齢に達した時の献血への協力 ○同世代の者が呼びかけることにより、若年層に対し、効果的な献血思想の啓発が図れる。
	【複数回献血者確保について】	○献血者登録制度及び複数回献血クラブの活用	○複数回献血クラブの育成・強化	○献血者の安定的な確保
	【企業等組織的な献血の確保について】	○事業所訪問等 ○献血推進団体等の表彰	○事業所、団体へのローラー作戦の実施 ○献血推進団体の育成・強化	○新規の献血受入事業所の開拓 ○献血推進団体の献血活動の活性化
沖縄県	【若年者確保について】	○高等学校における献血教室及び献血の実施。 ○専門学校における献血説明会及び献血の実施。 ○大学における献血の実施。	○献血の必要性について充分理解してもらう。	○将来の献血協力へつなげる。
	【複数回献血者確保について】	○血液センターから献血協力者に対して登録の依頼を行う。(毎月800~1,000枚の「献血ご協力のお願い」ハガキの発送) ○「献血ご協力のお願い」リーフレットを移動献血現場にて直接、献血者へ手渡し登録依頼。	○複数回献血クラブ会員の登録者確保。	○献血協力者の安定的な確保及び血液製剤の安定供給。
	【企業等組織的な献血の確保について】	○献血年1回の企業及び団体等に対して年2回以上の協力を依頼。	○献血協力団体の確保。	○献血者の安定的な確保。
	【その他】	○ライオンズクラブ、学生推進協議会、赤十字奉仕団等ボランティアの育成及び研修会の実施。	○ライオンズクラブ、学生推進協議会、赤十字奉仕団等の連携を強化。	○献血者の底辺の拡大及び普及啓発。

(注)内容については簡潔にとりまとめること。